

基本法案が国会に提出されていることから、18年度中に住宅基本計画を策定し、今後の住宅政策の方向性や実施計画を示したい。

庭瀬・撫川街並み整備

平成18年度から本格着手

問 庭瀬・撫川地区のまちづくり交付金事業の進捗状況と、平成18年度の整備予定は。

答 現在まで、地域の代表者で結成されたまちづくり協議会で整備内容の検討を重ねてきたところだ。17年度は撫川城址の整備などを進めており、18年度からは、旧庭瀬港の復元や庭瀬・撫川地区の回遊ルートの整備、街並み助成など本格的な事業に着手していく。

土地改良事業の県補助削減

農家への影響は

問 土地改良事業への県の補助率引き下げを受け本市では受益者の負担増を検討中だが、農家への影響をどう考えるのか。

答 事業の公平性や応分の負担を求めるべきとの指摘もある中で、今回の措置は県の削減分をそのまま転嫁するものではなく、本市で取り組む事業全体に平準化することにより、負担増を組合員で一律2%にすることで理解を得たい。なお、受益者

が不特定多数のものや防災的な事業などについては、一部適用除外とする考えだ。

西部地区の雨水対策

問 市西部のJR山陽本線、宇野線、笹ヶ瀬川に囲まれた区域の雨水排水計画見直しの内容は。

答 雨水を平田ポンプ場一カ

福祉・環境



市民協働で

資源循環型社会を構築

問 東部リユースぷらざの事業を増強し、ごみ減量とリサイクルの啓発拠点に。

答 現在、リユース品の提供、

所に集めて排水する計画から、平田ポンプ場の計画能力を縮小して新たに小規模の三ポンプ場を追加するもので、これにより笹ヶ瀬川の負担が軽減されるとともに、大規模幹線が不要となり建設コストが縮減できる。今後、平成18年度にポンプ施設の測量設計等を行い、19年度以降、財政状況等を勘案しながら早期に施設を整備したい。

向け、市民協働型の企画を増やすなど、更なる事業拡大に努めたい。

少子化対策へ積極的な取り組みを

問 厳しい財政状況の下、平成18年度予算では乳幼児医療費の助成を就学前まで引き上げるなど少子化対策への積極的な姿勢が見えるが、その理念は。



親子の健全な営みを支援 (親子クラブ)

答 活力

あるまちづくりに向け最重要課題の一つと考える。高い市民要望を受け今回、引き上げるもので、今後も児童クラブ等仕事と子育ての両立支援などに幅広く取り組み、安心して子どもを生み、育てられる環境づくりに努め、他都市からも移り住んでもらえるまちにしたい。

不妊治療助成

期間を五年に拡大

問 次世代育成支援の一端として平成16年度から始まった不妊治療助成事業について①本市の実績は②助成期間の拡大は。

答 ①16年10月からの半年間で七十一件、17年度は2月末現在までに百二十五件の助成を行った②国が18年度から通算二年の助成期間を五年に延長することを決定しており、本市も4月からの拡大に向け準備を進めた。

精神・知的障害者の

単身入居可能を支援

問 精神・知的障害者の市営住宅への単身入居受け入れが可能となったが①サポート体制は②民間住宅への入居を支援する体制は。

答 ①ホームヘルパーの訪問や、障害者生活支援センターと精神障害者地域生活支援センタ

1が行う相談等に対応する②10月から公営住宅への入居とともに地域生活支援事業の中で支援することになる。国から具体的要綱が示され次第、県と協議しながら、医療機関とも連携し早急に準備を進めたい。

贈らない! 求めない!
受け取らない!

政治家は公職選挙法により、選挙区内での寄附行為等が禁止されており、市議会議員はお中元・お歳暮などを贈ることや、地域の行事に、差し入れや祝儀を出すことができません。ご理解とご協力をお願いします。

会派の異動

太田武正議員が新風会を脱会し、無所属となりました。

次回本会議のお知らせ

5月臨時会は5月17日(水)、6月定例会は6月9日(金)から6月26日(月)まで開催の予定です。

編集後記

2月定例会では、本格的な行政改革に向けた緊縮型の当初予算が示される中、懸案の乳幼児医療費助成の対象拡大が明らかとなったほか、市政各般にわたる重要課題について活発な議論が繰り広げられました。市議会だより第四十一号ではこれらの内容についてお伝えします。